

平成21年度社会参画活動育成事業報告書

1 事業の概要

(1) 事業名 明日に向かって

ー東浦で手をつなごうー

(2) 事業の目的・概要

東浦県営住宅には、約1000世帯(約2800人)が居住している。そのうち約230世帯(約710人)のブラジルを中心とした日系外国人が生活している。

平成20年は日伯交流百周年を国内外で盛大に祝うことができたが、世界的な経済不況によって職を失い、ブラジルに帰国した家族も多い。それでも日本での生活に希望をもち、仕事にも子育ても頑張ろうとしている家族もみられる。

そこで、こうした家族の子育てについて相談ができる環境を設定しようとの目的で、この事業を立ち上げた。

事業の概要は、次の通りである。

- ① 日系の子どもをもつ保護者への相談活動
- ② 日系の小中学生向けの学習支援

(3) 受託団体の概要

- ① 団体名称 T A H (Todos sao Amigos em Higashiura)

東浦町立石浜西小学校に、この団体を設置する。

- ② 団体の構成員 全26人 うちブラジル国籍4人が中心的に活動

代表者はブラジル国籍の池並ルシア氏(石浜西小学校日本語適応教室補助員)

東浦県営住宅自治会役員(3人) 東浦県営住宅民生委員(4人)

東浦県営住宅住民代表(3人) 石浜地区ボランティア代表(3人)

石浜西保育園(1人) 石浜西小学校(7人) 東浦中学校(5人)

- ③ 団体の規約を作成し、役員等を選出している。

2 事業の実施状況

(1) 日系の子どもをもつ保護者への相談活動（7回実施）

- ① 実施期間 平成21年7月1日（土）～平成22年1月29日（金）

- ② 実施場所 東浦県営住宅 集会所

- ③ 実施体制 T A H の構成員・役員が中心となり、実施した。

- ④ 参加者 石浜西保育園保護者、石浜西小学校保護者、東浦中学校保護者

- ⑤ 準備作業 T A H の構成員・役員が中心となり準備をした。

- ・当日の内容の確認、資料等の準備を前日までにを行った。

6回（7/23、7/31、9/1、10/1、11/28、1/9）

- ・案内状を作成し、保育園・小学校・中学校・団地回覧板へ配布した。

- ⑥ 具体的内容 19:00～21:00

- ・第1回 7月24日

【内 容】夏休みの特別学習会についての具体的な説明会をした。

【参加者】小中学生の保護者と児童生徒（44名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（15名）

- ・第2回 8月1日

【内 容】学校や地域に対する疑問に答える会をした。

【参加者】保・小・中学生の保護者（16名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（6名）

- ・第3回 9月4日

【内 容】中学校卒業後の進路の説明会をした。

【参加者】保・小・中学生の保護者と小中学生（28名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（16名）

・第4回 10月3日

【内 容】小学校や中学校への入学時の説明会をした。

【参加者】保・小学生の保護者（8名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（6名）

・第5回 11月14日

【内 容】日本語教室と日本語適応教室の説明会をした。

【参加者】保・小学生の保護者（7名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（6名）

・第6回 12月5日

【内 容】子育ての悩みについての会をした。

【参加者】保・小中学生の保護者（11名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（6名）

・第7回 1月16日

【内 容】子育て支援（役場）についての会をした。

【参加者】保・小・中学生の保護者（18名）

【担当者】T A H の構成員・役員 小学校の教員（6名）

(2) 日系の小・中学生向けの学習支援

① 実施期間 平成21年 夏休みと冬休みの11日間

② 実施場所 東浦県営住宅 集会所

③ 実施体制 T A H の構成員・役員・小学校と中学校の教諭・地区ボランティアが、協力して実施した。

④ 参加者 石浜西小学校児童、東浦中学校生徒

⑤ 準備作業 ・参加希望児童生徒募集（小学校と中学校に案内配布）

- ・担当ボランティア募集 (団地回覧配布)
- ・必要物品などの準備 (T A H の構成員)

⑥ 具体的な内容 午前8:00～12:00

第1回保護者相談会で説明をした内容で、案内状を作成して、小中学校に配布した。夏休みについては9日間、冬休みについては2日間実施した。

7月27日(月)

- ・参加小学生 61名 参加中学生 10名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 15名

7月28日(火)

- ・参加小学生 58名 参加中学生 10名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 13名

7月29日(水)

- ・参加小学生 49名 参加中学生 9名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 14名

7月30日(木)

- ・参加小学生 52名 参加中学生 9名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 13名

7月31日(金)

- ・参加小学生 48名 参加中学生 7名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 12名

8月25日(火)

- ・参加小学生 32名 参加中学生 8名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 9名

8月26日(水)

- ・参加小学生 33名 参加中学生 7名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 11名

8月27日(木)

- ・参加小学生 32名 参加中学生 8名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 10名

8月28日(金)

- ・参加小学生 34名 参加中学生 8名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 10名

12月24日（月）

- ・参加小学生 58名 参加中学生 9名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 10名

12月25日（火）

- ・参加小学生 34名 参加中学生 5名
- ・小・中学校教員、地区ボランティア 7名

3 事業の実施による効果

(1) 日系の子どもをもつ保護者への相談活動実施の効果

① 日本での生活全般に不安をもっている外国人家庭が多い。特に子育てについては、母国との違いを感じながら公立の保育園・小学校・中学校に自分の子どもを入れている。この事業では、長年にわたり小学校や中学校に外国人指導補助員として勤務する日系ブラジル人が相談の中心として活動した。様々な子育て等の悩みが出てきたが、今までの経験をもとに助言をすることができた。また、小学校や中学校に勤務する教員もこの活動に参加することで、保護者と学校との信頼関係が今まで以上に向上してきた。

こうして、日本語が十分理解できない日系の保護者が子育ての相談や情報交換等により、安心して日本での生活をするできるようになってきた。

② 「日本語を勉強して子どもの勉強を見てあげたい」「日本語を勉強して自分の仕事に役立てたい」との強い思いが相談の中で出された。そこで、多文化共生室に相談した。後日「大人の日本語教室」開催が実現した。この事業の大きな効果のひとつとなった。

(2) 日系の小中学生向けの学習支援活動実施の効果

保護者は仕事のため、昼間はほとんど家庭にいない。夏季・冬季の長期休暇に団地内の集会所で勉強会に参加することは児童生徒・保護者にとって大変安心でき

ることである。また、将来、帰国か永住か未定の家族が多い中、児童生徒はせめて高校へは進学したいと願っている。そのため学力をしっかりとつけたいとの思いも強い。本事業を実施することで、児童生徒への効果は大変大きなものとなった。

(3) ボランティア活動の効果

日本語がよく理解でき、多文化共生を熱心に願う日系ボランティアの社会参画はこの地区にとってとても重要なことである。本事業においても、多くの日系ボランティアが参加して日本人のボランティアと協力しながら活動した。

(4) 地区から以下の感想を得た。

- ・相談会に参加して、日本とブラジルの文化の違いがわかりました。このような事業のおかげでわかりました。(日系ブラジル人小学生の保護者)
- ・大人の日本語教室が12月からスタートしました。はじめから参加しています。この相談会のおかげで日本語の勉強ができます。うれしいです。
(日系ブラジル人小学生の母親)
- ・長い休みに、近くの集会所で勉強を無料で教えてくれるのは、親として安心です。とてもうれしく思いました。(日系ブラジル人小学生の保護者)
- ・中学生の息子が、自分から勉強会に参加しました。ありがとうございました。感謝しています。(日本人保護者)
- ・団地の集会所が、団地住民や子どもたちに有効に利用されていることは大変良いことである。相談会や勉強会などを通して日本人と外国人が仲良く団地に居住していくことを願っている。(団地自治会長)
- ・相談会に参加して、外国人の様子がわかった。不況で生活が大変な家庭もある。中学校へ進学するとき制服代等たくさんのお金が必要となる。町内に呼びかけて古い制服など集めたい。(団地民生児童委員)
- ・相談会や夏休み学習会に参加して、この事業のことがよくわかった。PTAとしては、十分な協力はできないが、役員会や委員会で、何か協力できることを考えていきたい。(PTA会長)

4 事業の実施に要した経費

事業費 400,000円

費目	金額(単位 円)	内訳
① 翻訳代金	17,000	のべ7人 17,000円 2,500円×4 3,000円×1 2,000×2
② 勉強会の消耗品費	26,985	定規、コンパス、画用紙、習字用具、筆記用具等の消耗品 26,985円
③ 印刷費等	24,015	印刷用紙等 16,995円 プリンターインク 7,020円
④ 相談会準備会	48,000	謝金4人×二千元×6回 48,000円
⑤ 相談会開催(7回)	96,000	謝金三千元×のべ32人 96,000円
⑥ 夏・冬勉強会	176,000	謝金1回二千元×のべ88人 176,000円
⑦ 交流会・報告会参加	12,000	謝金1回三千元×のべ4人 12,000円

5 事業の継続・発展の見通し、今後の課題等

- (1) 石浜地区での多文化共生に関する事業を進めることができ、地域の多文化共生に関する意識の向上に役だった。今後も、同様な事業を継続していくことが必要である。また、地域の住民もこれらの事業を継続してほしいと願っている。これまでも団地自治会は様々な機会に協力をしてくださっているが、多文化共生の発展のためにも団地自治会の更なる協力を要請していきたい。

事業の継続のためには経費が必要である。今後も、愛知県の事業に募集があれば応募していきたい。また、東浦町にも要望を継続していきたい。

- (2) 外国人の居住者が多い団地で、すべての住民が安心して協力し合って生活ができるような活動を更にすすめることが課題である。

6 その他参考事項

- ・21年 8月 3日 TAHの活動(ブラジル人保護者子育ての悩み相談)が、「中日新聞知多版」で紹介された。
- ・21年 8月 14日 TAHの活動(夏休み特別勉強会の様子等)が、「日本経済新聞(夕刊)」で紹介された。
- ・21年 12月 29日 TAHの活動(大人の日本語教室)が、「中日新聞知多版」で紹介された。